

## 学 会 報 告

### 2001 年度日本フードシステム学会大会

渡 部 靖 夫

本年6月16, 17日の2日間にわたり, 2001年度日本フードシステム学会大会が, 女子栄養大学駒込校舎を会場として開催された。

第1日目は, 全員参加により「消費者の食行動とフードシステムの新展開」をテーマとするシンポジウムが催され, 午前中は次の4つの基調報告があった。

- 1) 消費者の食情報と食行動  
(武藤志真子: 女子栄養大学)
- 2) 消費者ニーズの変化と外食産業のサービス対応  
(小田勝己: 外食産業総合調査研究センター)
- 3) 消費者の安全性志向とフードビジネスの責任  
(高力美由紀: セゾン総合研究所)
- 4) 消費者主権と消費者責任  
(鈴木美雪: 日本女子大学)

同日午後は, これらの報告に対するコメントが蜂巣賢一(自主流通米価格形成センター), 時子山ひろみ(日本女子大学), 吉田節夫(キッコーマン顧問), 田村馨(福岡大学)の各氏から述べられ, その後フロアーからの意見・質問も受けて, 討論が行われた。

今年度のシンポジウムは, 思い切って消費者サイドに的を絞ったテーマとした点に特徴があったといえよう。筆者が独断的に総括すると, 4つの報告は, 「食情報」を縦軸として, それぞれが「インターネット」, 「外食ニーズ」, 「安全性志向」, 「消費者責任」といった横軸を組み合わせながら, 我々参加者に, フードシステムにおける消費者の位置付けを考えさせる機会を提供したと思われる。とりわけ第4報告者の鈴木氏が「フードシステムは, 本来, 消費者の意思・消費者の選択によって動かされる消費者主権のシステムであるべき」とする一方で, 「消費者は自由主義経済で期待される主権者としてフードシステムを適切に機能させる責任を負っている」とし, 今後の我が国フードシステムの展開における消費者のプレゼンスの重要性を強調されていたのが印象的であった。

第2日目は, 午前中に以下の2つのセッションが同時進行で催された。

- 1) 流通技術の新展開とフードシステム  
——中食を中心として——
- 2) 地域内発型アグリビジネスの新展開と地域活性化の戦略

筆者の参加した第2セッションでは, 以下の報告があった。

- ① 地域内発型アグリビジネスの論理と戦略  
(斎藤修: 千葉大学)
- ② 農業経営の主体と多角化戦略  
(津谷好人: 宇都宮大学)
- ③ 都市・農村交流と事業多角化の戦略  
(竹本田持: 明治大学)
- ④ 農業と食品産業の提携条件(1)(2)  
(仲野隆三: 千葉県富里町農協)  
(木内博一: 農事組合法人 和郷園)

セッションでは, 斎藤報告の中にある「価値を形成しにくい資源循環システムを地域内発型アグリビジネスの価値循環に組み込むことによって, 地域資源の活用はさらに進展するであろう」との指摘が興味深かった。その事例として第4報告で, 農事組合法人と和郷園の木内氏から, 畜産農家と提携し, 家畜糞尿とパッキング残渣を混合して堆肥に利用しているケースが紹介された。「地域内資源循環」が製品の市場価値実現につながる条件として, 企業提携や品質向上の取り組みの重要性が強調された。

同日午後は3会場に分かれて, 22本の個別報告が行われた。筆者が聴いた報告の中では, EU委員会及び加盟各国が, WTO体制下で著しい構造変化を起こしつつある農業・食品産業の国際競争力強化のために, 産学協同によるアグリフードチェーンの開発・研究を支援している状況に関する松木氏(日本獣医畜産大学)の報告が印象に残った。なお当研究所からは, 筆者が「豪州の遺伝子組換え農産物に関わる諸規制見直しの動向」についての報告を行った。